



令和元年、足利商工会議所会頭に就任。中小・小規模事業者の経営維持・継続のための産業活動支援に取り組んでいる。

私たちの「足利市」について語り合う

特集 足利商工会議所

足利市議会 SPECIAL INTERVIEW

商工業の振興・発展を支援し、本市の経済をけん引している足利商工会議所。今回のしぎかいひろばでは、足利商工会議所のリーダーである相馬会頭と対談しました。



足利商工会議所とは

（聞き手：横山議長）まずは足利商工会議所についてお聞かせください。

相馬会頭 商工会議所は、今年7月に発行される1万円札の肖像となる渋沢栄一翁が明治11年に設立した東京商法会議所がその源流です。業種、業態、規模の大小を問わず、地区内のすべての商工業者の利益を図るとともに、社会福祉の増進に資することを目的に、現在515の商工会議所が全国で活動しています。足利商工会議所も昭和15年に設立され、先人の努力で80余年の歴史を刻み、本市の商工業の発展に寄与してきましたと自負しています。

物価高騰の影響について

現在、資源価格の上昇などによる物価高騰が市民生活や事業活動に大きな影響を及ぼしています。本市

地域活性化に向けて

—— まちのにぎわい創出や観光の推進のために様々な事業を実施されていますが、特に足利花火大会は関東でも有数の花火大会です。第107回大会は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、4年ぶりに従来どおりの開催となりましたが、工夫された点がありますか。

相馬会頭 「花火大会」の日は1年で足利が一番にぎわう日です。当日はお客様に事故なく楽しんでいただくため、警察、消防、鉄道、警備、ボランティアなど600人を超える方が裏方として大会運営を支えています。特に、翌朝の会場清掃ボランティア活動は足利花火大会の最も誇れる活動であると思っています。また、大会の経費を生み出すため、スポンサー企業のほかにも一般からの寄付を募ったり、有料観覧席を増設したり、持続可能な花火大会とするため、様々な工夫をしています。

議会においても、昨年度に臨時会を開催するなどして、物価高騰対策を盛り込んだ補正予算を成立させてきましたが、本市経済界における物価高騰の影響をお聞かせください。

相馬会頭 円安に伴う電気料金をはじめとする光熱水費や原材料費の高騰、恒常的な人手不足に対応するための賃上げの要請など、中小企業の経営は非常に厳しいものがあります。商工会議所では「パートナーシップ構築宣言」を推進し、円滑な価格転嫁交渉のためのセミナーを開催するなど、様々な働きかけや機運の醸成を図っています。



令和5年8月5日に開催された第107回足利花火大会。創始120年を迎えた歴史と伝統のある花火大会です。花火大会当日は45万人の観覧客が来場し、にぎわいを見せました。

—— 今後の地域活性化に対する取り組みや考えをお聞かせください。

相馬会頭 地域でお金が回る仕組みを作っていくことが大切だと考えています。商工会議所では足利ブランドを認定したり、まちの店主が講師となる「まちゼミ」を開催したりしています。今年度は異業種交流会を実施し、地域の産業力向上を図ります。市民の皆様も地域での買い物心をかけていただくと幸いです。

足利市議会に対して

—— 最後に、足利市議会に期待することはありますか。

相馬会頭 市内中学校で「議会を知ろう！中学校出張ぎかい」を実施したり、議会広報紙を毎年進化させたり、たゆまない活動をしている足利市議会に心から敬意を表します。最も市民の近くにいる市議会議員が引き続き市民や次世代のために、活躍されることを期待しています。